

編集後記

編集後記の記述に先立ち、2011年3月11日の東日本大震災並びに福島原発事故による放射能汚染で、犠牲や被害にあわれた皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。大震災以後1年を経過しようとしています、一日も早く行政府主導の復旧・復興政策とその早期実現を望むものであります。また人と人の絆によって日本の将来に明るい展望と希望をもたらす社会にしていかなければならないと思います。本学でも教職員・学生の皆さんによって、被災された方々の写真の復元などのボランティア活動が行われていることを聞いております。写真の専門大学として出発した本学の開学精神が見られて、大いに意を強くしたところです。

さて、『芸術世界』東京工芸大学芸術学部紀要第18号に、論文9点・作品10点合計19点と例年以上の多くのご投稿をいただき心から御礼申し上げます。

また、先の中野図書館報の表紙に引き続き、今紀要の表紙を飾ってくださった本学学長若尾真一郎先生には、重ねて感謝を申し上げます。

このたびの紀要編集にあたり、紀要編集委員会のメンバーから、今までの論文と作品の領域に分けた区分の他に、研究ノートやシンポジウム、報告等の領域分野の掲載に向け拡大すべきとの意見をいただきました。映像の表現としてDVDの利用、さらには紀要の電子化のご意見等、まさしく紀要そのものの在り方に関する指摘であります。

今日まで本学紀要の発行には、たくさんの諸先生方が携わってこられ、方々のご尽力と努力の結晶があって今日まで引継いできたものであります。今後さらにできるところから一つひとつ、より良いものへと検討していく必要があります。

今回、また査読の中でいくつかの厳しいご提言、あるいは論評を頂戴しておりますが、それに対する検討等をしていただき、また次へのステップに資すべきご提言として受け止め、今回の論文・作品の掲載となっております。改めて査読者の皆様方に感謝申し上げます。

なお、紀要の巻末に本学教員の研究・制作業績等を掲載しておりますが、別途、教育研究支援課から学外へ全教員の教育・研究・制作業績等が公開されているところから、研究・制作業績等の掲載の必要性があるのかどうかの意見も出ております。

紀要は、大学として教員等の日頃の研究・作品制作等の成果を収録したものでありますので、重複してもいいのではないかと史料するところですが、今後は多くの方のご意見を取り入れながら本学紀要の方向と方針を進めて頂ければと存じます。

平成24年3月 紀要編集委員長 狩 野 一 久

芸術世界

東京工芸大学芸術学部紀要 Vol. 18

2012年3月31日 発行

編 集 東京工芸大学芸術学部
紀要編集委員会

発 行 東京工芸大学芸術学部
〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5
Tel. (03) 3372-1321
Fax. (03) 3372-1330

印 刷 有限会社 啓文堂 松本印刷
東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12